

111 トンガリササノハガイ (イシガイ科)

兵庫県ランク:A

*Lanceolaria grayana*

環境省ランク:NT

種の概要

東海地方・福井県以西の本州、四国、九州北部に分布し、河川や水路に生息する。殻長150mm程になり、笹の葉形をしている。後背縁近くには、殻頂から後端にかけて鈍い稜角が走る。琵琶湖水系には、外観がやや太短いササノハガイと言われる型が分布する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○	△	△	△	○		○

県内分布

三田市、加古川市、小野市、姫路市、たつの市、太子町、豊岡市、篠山市、丹波市

県内における生息状況及びその他特記事項

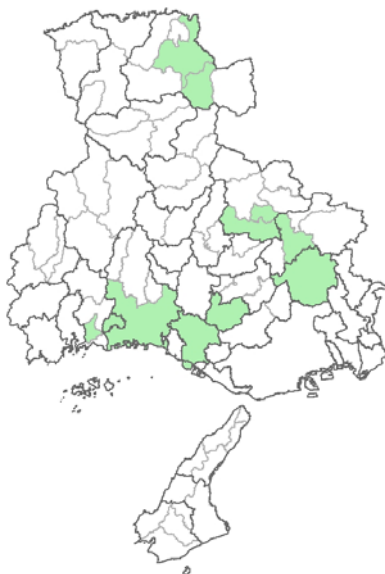
ランク変更なし。県内では、日本海流入河川の由良川(県内は支流のみ)や円山川水系、瀬戸内海側では、主な主要河川に生息しているが、生息地は局所的であり、近年における既知産地は10箇所に満たない。15年ほど前まで豊産した加古川や千種川では、今では見る影もないほど減少、あるいは絶滅箇所もある。生息水路の付け替えや河川改修が目立った要因であるが、生息環境が維持されていながらも著しく減少している理由は定かでない。

保護上の留意点

生息水路の付け替えや河川改修は目立った要因であるので、他のイシガイ科二枚貝と同様な保全策を講じる必要がある。一方で、生息環境が維持されていながらも著しく減少している理由は定かでないが、この場合、オオクチバスなどの増加による幼生の宿主魚の減少や県内全域での魚類の衰退などが大きなリスクとなっているとも考えられる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修